

2021 年 WAM 助成

来店型フードバンクの実施とそれに伴う相談対応事業

報告書

2022 年 3 月

NPO 法人さくらんぼ共生事業部



本事業は〈令和 3 年度 社会福祉振興助成 (WAM 助成)〉を受けて実施しました。

目次

1 本事業取り組みの背景

1.1 NPO 法人さくらんぼ共生事業部について

1.2 実施地域の特徴

2 本事業における取り組み概要

2-1 前身となった活動

2-2 実施内容

1) 開催日時等

2) 利用者のすがた

3) 食品共有団体・者のひろがり

2-3 利用者のひろがり

2-4 相談対応事業

3 まとめとこれから

4 資料

4-1 利用者アンケート結果

4-2 会場のようす

4-3 参加フォーラム

背景：共生事業部を設置した経緯

1.1 本プロジェクト実施主体NPO法人さくらんぼ共生事業部について

当法人は、1997年より地域で保育や子育て支援の事業を行ってきた。

「使い勝手の良い保育園」をめざした保育事業の中で、子どもの生活の安定のためには、保育の提供だけでなくその背後の養育者への支援の必要性を感じ、事業の枠を地域子育て支援事業にひろげてきた。

コロナ感染というこれまで経験したことのない事態の進行のなかで、社会全体に不安感が拡がってきている中で、子どもや養育者から対象を広げ、「不安のなかで暮らしている方」や「頼る場が少ない方」が地域で共に暮らせるための活動を行うことを狙いとして、令和3年に共生事業部を発足させた。

共生事業部は、公助（公的な福祉サービス）と自助（自分の力で備え、守ること）の間にある、「余裕があるときに支え、困ったら支えてもらう」共助を、より豊かにするための活動として、「下宿事業」「短期居住支援事業」「来店型フードバンク事業」を運営している。

表1：下宿やWithの説明

下宿やWith	
コンセプト	“福祉”でも“自立”でもない“地域の支えあい”的延長として
事業概要	実家を頼ることが難しい女子学生向けに、安価に安全な住宅を提供する。学生の期間のみ居住することができる下宿。定員3名。
特徴	卒業後に一人暮らしできるようになることを念頭に、基本的には、一人暮らしと同様の生活環境を提供する。一方で、共用部の掃除やごはんとみそ汁をつくり、月に1度のミーティングを通じて、できるだけ自然に、生活の困りごとについて話しあえる場を持っている。
事業のねらい	学校を卒業し、卒業後の就業や一人暮らしができる状態になること。（生活の知恵、金銭管理、適宜相談して頼ることを身につける）
事業開始年月	2019年4月入居開始
運営体制	事業責任者1名、事務局1名、運営ボランティア7名
備考	クラウドファンディングで集めた資金を財源に立ち上げ

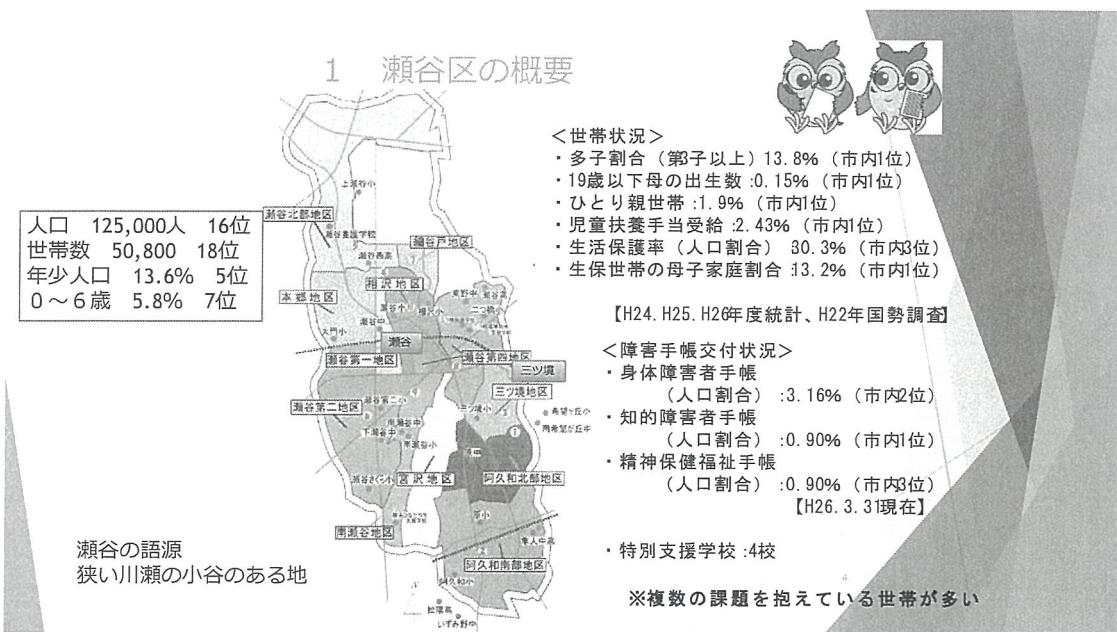
表2：JIKKAの説明

JIKKA	
コンセプト	(J) じつの家族ではないけれど (I) いつでも (K) 帰っておいで。(K) ここで今は (A) あまやどり
事業概要	生活に困難を抱えた人が3ヶ月程度生活できる住居を提供する。標準利用期間3ヶ月。8畳程度の個室3室
特徴	対象者や利用制限をあえて厳密に設定せず、柔軟なやり方で、一時的な住まいの提供を行う。
事業のねらい	「今、安全な場に身を置いて落ち着くことができれば、一步を踏み出すことができそう」という方に向けて、まずは安心して、落ちついて今後のことを考え、次の暮らしの場に進んでもらうこと。
事業開始年月	2021年4月入居開始
運営体制	事業責任者1名、事務局1名、運営ボランティア1名
備考	クラウドファンディングで集めた資金を財源に立ち上げ

表3：くろーばーマーケットの説明

くろーばーマーケット	
コンセプト	生活に困難を感じる人たちが利用できる来所型フードバンク
事業概要	生活に困難を抱えて、何らかの支援団体、支援者から紹介された方々を対象として、週2回（月・木）開く0円マーケット。必要なものを必要なだけ（目安は買い物かご1杯分）選んで持ち帰る。
特徴	利用者の意思で選択する自由があるフードバンク。地域の多様な支援者・支援団体とのつながりの中で実施する。
事業のねらい	お仕着せ感のある食支援から、利用が選択できる食支援へ。困りごとを相談できる場となる。
事業開始年月	2021年4月準備開始、6月開所
運営体制	雇用非常勤スタッフ2名配置 事業責任者（兼務）1名 ボランティア3名
備考	WAM通常助成事業（2021年）

1.2 実施地域の特徴



横浜市瀬谷区は、横浜市の北西部に位置し、高齢化が進んでいる一方で、年少人口率も高い区である。また、上記の図のように、生活保護率は市内で3番目に高く、多子（3人以上）割合、ひとり親世帯率、若年出産率は市内で一番高いという特徴を持つ。

また、横浜市内の他の区と比較し、都市化しておらず、昔ながらの住民のつながりや助け合いの気風が残っていることも特徴としてあげられる。借家率も高く公営住宅が多く存在していることで、古くからの住民と一時的な居住地としている住民の2層に分かれている。自治会加入率も高く各地域でしっかりと展開されしており、生活困窮の最後のセイフティーネットともなっている。

2. 本事業の取り組み概要

2-1 前身となった活動

子育て層に特徴のある横浜市瀬谷区で保育・子育て支援活動を長く実施しているなかで、食事がとれていない子どもの発見や、生活不安をもつ養育者からの相談から、地域で一緒に活動しているNPO法人と共同で子育て層を対象とした「お福分けの会」を2016年に発足し、7か所のポイントで食品配布を行ってきました。その活動の中で提供する食品のかたよりや、家族構成に見合った提供等ができにくいくこと、コロナ感染を受けて、子育て層以外にも食品配布を希望する声があがり、利用者が持ち帰るかたちのフードバンク事業に対する検討を始め、2021年WAM助成を受けて来店型フードバンク「くろーばーマーケット」の開始に至った。

2-2 実施内容

- 1) 開催日時 月曜日 10:00 ~ 17:30
木曜日 12:00 ~ 18:30
- 年間開所回数 2021年 6月~2022年3月まで 79回
- ポイント配布個所 6か所 24回
- 来所型登録人数 98名 内団体数 4
- 利用者年間延人数 来所(2652名) ポイント配布(696名)
- 利用者登録時に発行された会員証提示、入り口での検温と手指の消毒の上入場することとし、を感染拡大時は同時の入場者を3名とした。

2) 利用者のすがた

実施法人が子育て支援 NPO であるからか、子育て層の利用が多かった。その中でもひとり親家庭が 58 世帯と登録者数の半数以上をしめ、区の特性から生活保護受給者も多かった。これまでにフードバンク食品の収入換算について指摘されたことがあったのか「生活保護を受けていても使えるか？」尋ねる方も複数みられた。「今は大丈夫ですよ。」と伝えたが、このような当事者に益となる情報が発信されていない状況がうかがえた。

また、外国籍の方の利用の様子からは、生活上必要な情報が行き届いていない様子や家から地域に出ていく場所がほとんどなく、友人もいないという孤立した状況がみてとれた。くろーばーマーケットでは、スタッフ会議の中で利用者と積極的な会話や交流を行っていこうと確認していたので、来所回数を重ねることで、様々な心配事の相談や世間話ができるようになり、利用者にとって居心地の良い場となれたのではないかと思う。

フードバンクに多くある防災食品のおいしい食べ方のレシピを紹介し合ったり、0円バザーで物品の使い方の説明をしあう様子もあり、食品を受け取るだけの関係から少し広がったつながりがスタッフとも利用者同士でもできたことは成果であったと思う。コロナ感染で職を失い困窮しているというケースも複数あった。

就労している人には 18：30 終了という時間設定では間に合わないという声をいただき、19：00まで開所することを実験的に行つたが、利用者数に大きな変化はみられなかった。しかし、ニーズとしては確実に存在しているので、次年度の課題としてふりかえりスタッフ会議で確認を行い、次年度計画につなげることとした。

3) 食品共有団体・者 のひろがり

フードバンク団体

フードバンクかながわ <https://www.fb-kanagawa.com/>

セカンドハーベスト・ジャパン株) <https://2hj.org/>

フードバンクかわさき <https://fb-k.jp/>

ストックベース（水） <https://www.stockbase.co.jp/>

その他団体

NPO 法人 おてらおやつらぶ

<https://otera-oyatsu.club/>

わたぼうしぶたけ（米・野菜・果物）

かえるファクトリー（野菜）<http://kaerufactory.co.jp/>

神奈川県こども家庭課（化粧品・ハンドソープ）

横浜アストレア（衛生用品他）<https://y-astrea.com/>

WE ショップ あさひ（米・調味料・食品・衣類等）

<http://www.we21japan.org/shoplist/asahi.html>

活動地域の方々

グローバルフーズ（パン）

くるみの森（パン）

家庭菜園 2名（野菜）

NPO 法人さくらんぼ職員有志（食品・衣類・雑貨）

反貧困ネットワークささえあいかながわ（野菜・果実）

地域住民 2

スタート時は、セカンドハーベスト・ジャパンとフードバンクかながわからの提供品だけであったが、地域や法人職員に協力を呼びかけたことで、提供者が広がってきた。特に、生活困窮者の駆けつけ支援の食品提供にくろーばーマーケットの品を使ってもらうようになったことで、食品提供の輪が広がり、野菜や果物が届くようになった。これらにより、提供品の種類を増やすことができ、楽しみに来所する方も増えてうれしいことだった。

また、「生理の貧困」がマスコミ等で報道されるようになったことで、生理用品の寄付が寄せられ非常に喜ばれた。

食品からスタートしたが、季節の衣類や靴、学用品、食器等の寄付品を「0円バザー」と名称をつけ隨時開催した。寄附品はきっちりと手入れされたものが多く、手に取ったり利用者同士で勧め合ったり、試着したりと楽しみなイベントとして好評であった。

2－3 利用者のひろがり

スタート時は「お福分けの会」を利用していた方々の利用が多かった。居住地が開催場所に近い人以外は主にこれまでのポイントでの引き取りを選び、不足がある場合にくろーばーマーケットを利用する方が多かった。次第に他の地域の方や、保育園の利用者、社会福祉協議会等からの紹介を受けた方へと利用者層は広

がってきた。通常は他のフードバンクを利用し、不足した場合に来店型で補うと
いう利用の形は多くみられた。

SNS 発信を機に遠方から取りにこられる方や自分の住む地域のフードバンクの
情報についての問い合わせが多くなった。フードバンク情報が困窮しているかた
に届いていない状況がうかがえた。

2－4 相談対応事業

事業開始時期が神奈川県のコロナ感染拡大期と重なりに蔓延防止措置が繰りか
えし発令された。その中で、計画では月に1度相談会を開催し外部団体から相談
員を会場に配置しようと計画していたが、相談員をお願いしていた方々も福祉現
場の方が多く、参加していただくのが難しかった。8月には緊急事態宣言がださ
れ、相談対応の方法変更を行った。

くろーばーマーケットの運営のなかでスタッフが聞き取り、個別対応が必要
だと判断した14件に対して、法人の相談室を確保して個別に対応することとし
た。うち外部から専門相談員として対応していただいた件数は8件、残りは法人
のソーシャルワーカーや専門職が対応した。

個別相談の内容は、外国籍女性居住の喪失・移転（2）、夫婦関係（2）、
DV・虐待（1）、育児不安（4）、生活困窮（2）、精神的不調（1）、その他
(2)であった。

毎週顔を合わせて、会話するという日常的な関わりの中でスタッフが感じた不
安はとても良いセンサーとなっていた。特に、DV・虐待のケースでは、当事者へ

の力づけやDV認識の醸成が自然な形で行われ、シェルター保護につながった。それと同時にこどもたちも学校へ通うようになったとの報告を受け、地域の中に潜在していた重篤なケースの発見と初期対応が「食」の提供という一見関係のない場所での関わり合いの継続が大きな要因だったと思われる。その後、家族からの連絡もあり、スタッフ一同安堵することができた。

また、極度の生活困窮状況にある方に対して、路上生活者等へのかけつけ支援をしている方との出会いが相談という形で設定でき、次への支援と繋げることができた。その他の2件は、傾聴のみを行ったが、食の不足だけでなく、話す相手がないという関係性の不足の中で暮らしている方だった。

相談事業は本年度計画通りに進行することができなかつたが、来店型フードバンクという店舗に訪れる形での食品提供の場のスタッフとの会話や気軽な相談は利用者の生活状況の変化をつかむ上で効果的であったと思う。関わり合いを通じて、要望を出すだけでなく、片付けの協力やバザー品やレシピ提供など活動に当事者が参加し、支援する・されるという形でない関係性が生まれている。

3. まとめとこれから

来店型フードバンクの利点は、食品の提供+ α ができるだけでなく、交流が生まれる場所となった。困窮の深刻化が進むほど他の人のつながりが弱くなる傾向がある中、孤立や困りごとの深刻化を予防する地域にあたりまえにある場所となる可能性をつかむことができた。

① 地域のボランティアが主体となった運営にシフトし継続を図る。

フードバンクという収入構造のない取り組みであるが、法人内の理解も広がり、会場場所を法人から提供してもらう形で継続が可能となった。この1年間で新たに活動への参加を申し出てくれたボランティアは6名となっている。居場所スタッフ研修や対人スキル研修を実施した上で積極的に運営に参加してもらい、この先ボランティアが主体となった運営にシフトを図っていきたい。

② すぐに食べることができる食品提供を広げる。

本年度利用者の様子をみていて、ただ単に食べ物がないという困り感だけではなく、調理をする余裕のなさを話す人が多かった。特にひとり親家庭では、仕事から帰って調理をすることが面倒であると感じたり、すぐ食べられるものを食べ続けたりしている状況であったので、炊飯してパック詰めのごはんの提供を

行ったが、仕事帰りに立ち寄る利用者を中心に好評であった。例同食品の継続的な提供は2021年度はなかったが、すぐに食べられる食品として冷凍食品の提供の拡大を図っていきたい。

③週1回の夜の開催を試行する。

仕事をしているので今の開所時間では来店できない。との声は実施期間中良く聞いた。19:00までの開所時間の延長を試行したが、この時間ではあまり効果がみられなかった。17:00～21:00の時間帯の開所を検討していくこととなつた。

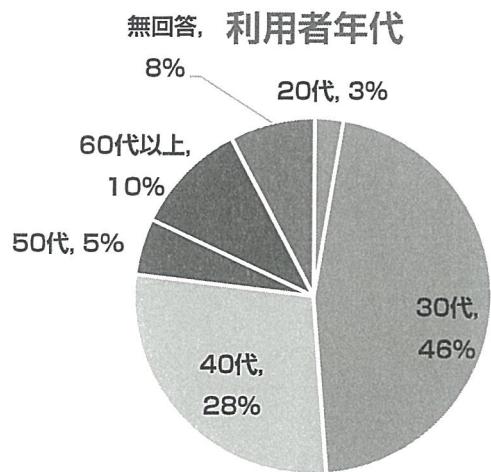
④居場所機能を併せ持ったフードバンク事業へ

今回、スタッフとの交流やコミュニケーションに力をいれて実施したが、この効果は大きかった。長い人であると1時間近く話してから帰る人もあった。この1年間「少し困っている時に訪れることのできる場所」を目指してきた。フリードリンクを飲みながら会話をしたり休んだりできるスペース会場内に設定しての実施を行う。この場は申し出のある地域ボランティア参加で作っていく。

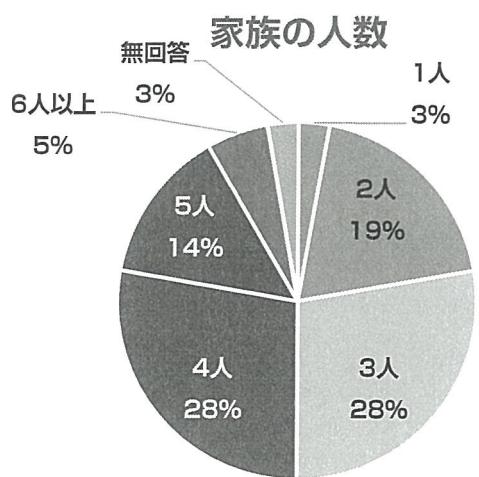
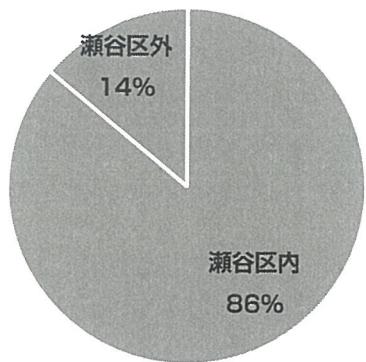
4. 資料

4-1 利用者アンケート結果

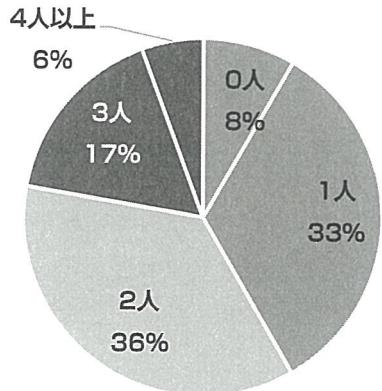
■あなたの家族についてお伺いします



住んでいる場所

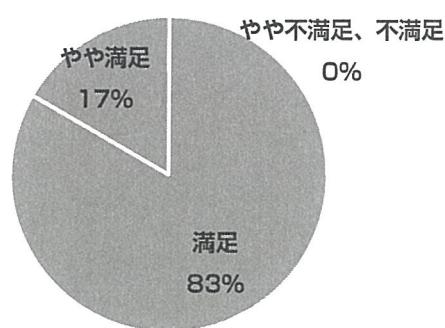


子どもの人数

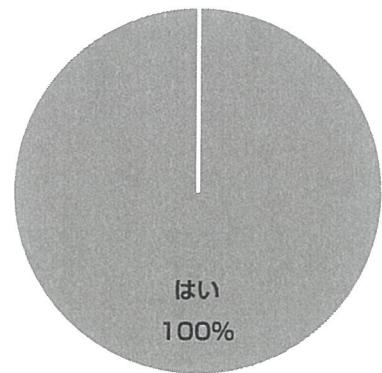


■ くろーばーマーケットについてお伺いします

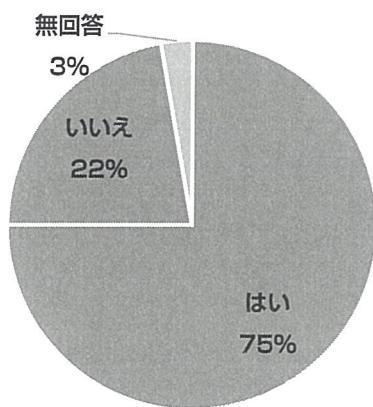
くろーばーマーケットの取り組みは
いかがだったでしょうか？



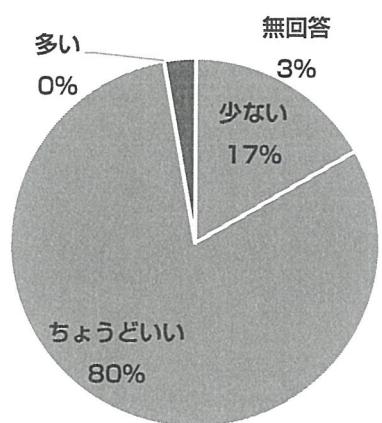
スタッフは話しやすかったでしょうか？



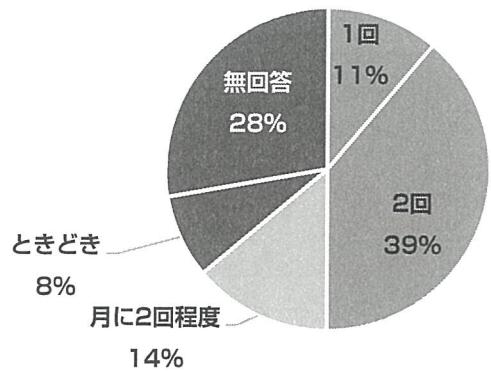
スタッフ世間話などができましたか？



週2回という開所回数はどうでしたか？



平均して週に何回利用しましたか？

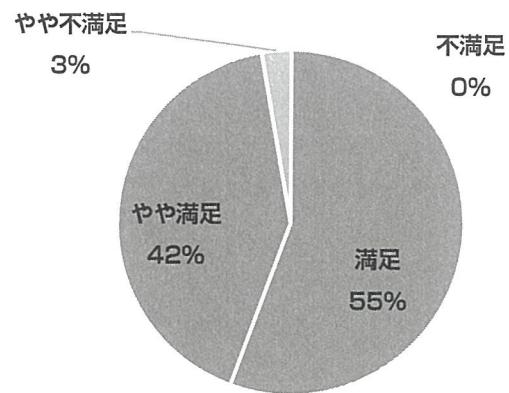


開所時間はどうでしたか？（自由記述）

手に入るだけありがたいので時間は気にならない
来られる時間もバラバラなので、夕方まで開いているのはありがたい
ちょうどいい（4名）
もう少し遅い時間までやってもらいたい（6名）
もう少し早い時間からやってもらいたい
木曜日の開所を早めてほしい
子どもの行動時間に合っていて利用しやすいです
助かっている

■品物についてお伺いします

品物についてはいかがでしょうか？



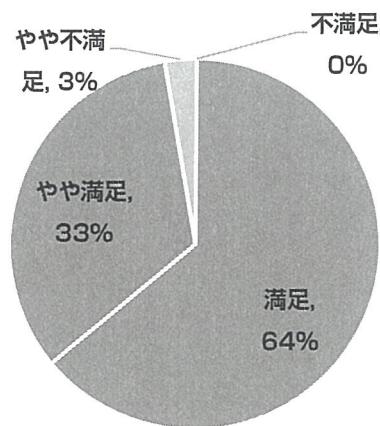
こんなものが欲しい等あったらお書きください

野菜（3名）、缶詰（3名）、レトルト食品（3名）、日用品（2名）、
米をもっと（2名）、冷凍食品、生鮮食品、おせんべい、果物、豆乳、卵、
日持ちするもの、調味料、菓子、小さい子どもが食べられるお菓子、食玩、
飲料とくにジュース類、ラーメン類

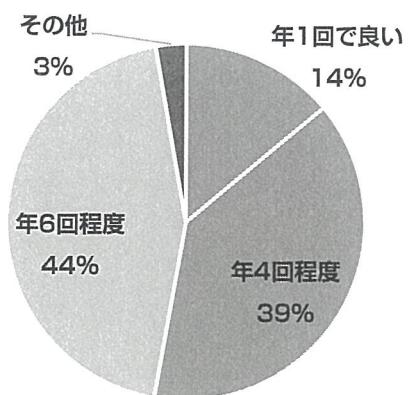
午前中の方がほとんど持ってしまって夕方少ない。

■0円バザーについてお伺いします

0円バザーについてはいかがでしょうか？



0円バザーの開催頻度について



■何かご意見ありましたらお書きください

家族の人数、子どもの人数が多いとすごく役立ちありがとうございます

食費が助かります

子ども服がバザーにあるととっても助かります！！

とても助かっています。（8名）

いつもありがとうございます。（7名）

4-2 会場の様子



4-3 参加フォーラム

以下のフォーラムに参加しました。

①フードバンクフォーラム

くろーばーマーケットの事例発表を行いました。

主催：生活クラブ生活協同組合ユニオン理事会

講師：湯浅誠さん

②フードバンク情報交換会「食支援に地域の力を活用しよう」

主催：（公社）フードバンクかながわ



■2021年度くろーばーマーケットスタッフ

担当理事：伊藤保子

職員：坂本左織、小桑美和

パートスタッフ：飯吉明子、松本宣栄、市川良子、佐川紗友里

ボランティアスタッフ数名